



令和元年11月1日現在	
総世帯数	1,945世帯
総人口	3,847人
男	1,861人
女	1,986人



—令和初の文化祭—
第22回
田川ふれあい文化祭

元号が令和に変わって初めての「田川ふれあい文化祭」が、10月20日(日)に開催されました。

前日までの雨も上がり好天のなか、オープニングアトラクションで、丸ノ内中学校吹奏楽部と田川小学校金管バンドによる演奏が行われ、多くの来場者をくぎ付けにしました。開会式では、今回初めて行われたポスターコンクールの表彰も行われました。

いよいよ開始となり、屋外は各種販売コーナーや「あそびの城」「古本市」「喫茶コーナー」で賑わいを見せていました。屋内では、各団体・サークルによる作品展示、ステータルによる作品展示、デジタル発表のほか、健康づくり推進員会による健康クイズラリーも行われました。



お昼には「ランチタイムコンサート」、3時から豪華景品が当たる「お楽しみ抽選会」などもあり、ここでは紹介しきれないくらい充実した内容で、大盛況の文化祭となりました。



(館報編集委員 野本)

多文化共生をすすめるために

9月7日(土) 田川公民館で、町内公民館長会、人権啓発推進協議会共催による、松本市出前講座「多文化共生をすすめるために」が開催され、18人が参加しました。

＊松本に暮らす外国人住民

はじめに、松本市多文化共生プラザでコーディネートされているNPO法人中興多文化共生ネットワークの丸山文さんから、「松本に暮らす外国人住民」について解説がありました。

今年7月の調べによると、松本市には4084人の外国人の住民登録があり、上田市



を抜いて県内トップに返り咲いたそうです。

出身国は66カ国、トップ5は、①中国②韓国・朝鮮③フィリピン④ブラジル⑤ベトナムの順で、71%が永住者、日本人の配偶者等の中長期在留者、29%が留学、技能実習等の短期在留者とのことでした。

＊ブラジル・フィリピンの文化

続いて、ブラジル出身の小林レジナさん、フィリピン出身の嶋口アメリカさん、それぞれから「わたしの国ブラジル」「わたしの国フィリピン」と題して、お話をしていたいただきました。

ブラジル出身の小林さんからは、渚本村公民館で行った家族の誕生日会の様子が紹介されました。公民館の内壁が色とりどりに飾りつけられ、とても華やかな会

の様子スクリーンに映し出されました。

＊多文化共生のまちづくり

最後に、小林さん、嶋口さん手作りのココナツのお菓子をいただきながら、茶話会も行いました。質疑の際、お二人に日本人との関わりで困ったことを尋ねたところ、「喜怒哀楽を表に出さない方がいて、心情が読み取れなくて困った」とのことでした。

今回は多文化共生を学ぶ上で、入門編的な講座でしたが、回を重ねることで、共生を阻む要因の「出会う前からある壁」や「出会った後に生じる摩擦」についてさらに理解を深め、私たちにできる多文化共生のまちづくりを段階的に学んでいくことができることでした。

(町内公民館長会)

会長 黒執 光久



文化祭ポスターコンクールを初開催

例年、文化委員会・事務局で作成していた文化祭のポスターですが、今回は地区の皆さんからデザインを募集しました。

周知が不十分な上、短期間の募集でしたが、たくさんのお応募があり、厳正な審査の結果、各賞を次のとおり決定しました。

○実行委員長賞

越山 明都さん(渚 上)

○公民館長賞

三澤 陽さん(渚本郷)

○文化委員長賞

須澤 裕美さん(巾上南)



このうち実行委員長賞作品を公式ポスターとして採用したほか、文化祭当日には入選5作品(特別賞含む)を展示、表彰式も行いました。

今回初めての試みで、作品の応募があるか心配しましたが、無事実施することができました。皆さんの協力に感謝します。ありがとうございます。

(文化委員長 山本 弘)

台風19号 田川公民館も避難所に

10月12日からの台風19号による大雨で、女鳥羽川が避難判断水位を超えたため、松本市から田川地区に「避難準備・高齢者等避難開始」が発令され、Mウイング、田川公民館などが避難所になりました。災害が起きた場合や災害の発生が事前に予測できる場合、まず「一人ひとりが身の安全を確保すること」を心がけましょう。避難は「落ち着いて」「安全に」が基本です。

(館報編集委員 野本)